

## 大規模な土砂災害を想定した合同防災訓練を実施します。 ～大町市・長野県・国土交通省が参加～

近年、神城断層地震や御嶽山の噴火、熊本地震、九州北部豪雨と、長野県内をはじめとして、大規模な土砂災害が頻発しています。

このような大規模な土砂災害に適切に対応するため、国土交通省松本砂防事務所では、平成 25 年度に管内の関係行政機関とともに「信濃川上流・姫川流域地域連携会議」を設置し、以後、災害発生時の役割分担や連携内容を確認しています。

本訓練は、連携会議に基づき、大町市を対象として、大規模土砂災害発生時に住民を適切に避難させるために、関係機関が取るべき一連の行動を確認・共有し危機管理体制を強化することを目的として開催するものです。

※昨年の実施状況を参考に添付（別紙 1）します。

### 1. 訓練日時

平成 29 年 11 月 14 日（火） 13:00～17:00

（タイムスケジュールは別紙 2 を参照）

### 2. 開催場所

サン・アルプス大町 大会議室（長野県大町市大町 1601-2）

### 3. 参加機関

大町市（消防防災課、建設課、福祉課）、長野県（危機管理部危機管理防災課、建設部砂防課、大町建設事務所、北アルプス地域振興局）、長野地方气象台、大町警察署、北アルプス広域消防本部、自衛隊、国土交通省北陸地方整備局（河川部、松本砂防事務所）、松本砂防スペシャルエンジニア

### 4. 訓練内容（詳細は別紙 3 参照）

司会進行者が災害シナリオに沿って、天候や災害状況にあわせた質問を参加組織に投げかけ、訓練参加者が組織としての対応や関係機関との連携について回答する質疑応答型で実施します。

また、解説者（国立研究開発法人土木研究所 石井上席研究員）が得られた回答に対し解説し、回答した組織や他機関の組織が連携対応の確認を行います。

#### 資料配付先

大町市政記者クラブ  
松本市政記者クラブ  
その他 専門紙

#### 問合せ先（事務局）

北陸地方整備局 松本砂防事務所  
電話：0263-33-1115（代表）  
副所長（技術） 長谷川 真英（内線 204）

# 平成28年度 大規模土砂災害を想定した合同防災訓練の実施状況

近年、神城断層地震や御嶽山の噴火、熊本地震、九州北部豪雨と、長野県内をはじめとして、大規模な土砂災害が頻発しています。

これを踏まえ、国土交通省松本砂防事務所では、平成26年神城断層地震で土砂災害が多発した白馬村を対象として、大規模土砂災害発生時に住民を適切に避難させるために、関係機関が取るべき一連の行動を確認・共有し、危機管理体制の強化を図ることを目的とした合同防災訓練を開催しました。

日 時：平成28年10月25日（火）13:00～17:00

場 所：長野県白馬村 北部農業者トレーニングセンター

参加機関：白馬村、長野県、大町警察署、北アルプス広域消防本部、  
自衛隊、長野地方気象台、北陸地方整備局、  
松本砂防事務所、松本砂防スペシャルエンジニア

【解説者】国土交通省水管理・国土保全局

砂防部砂防施設評価分析官 長井義樹

【見学機関】松本市、大町市、小谷村、白馬村町会長、

新潟県、糸魚川市 他

計92名

災害想定：白馬村で最大震度6強の地震が発生し、天然ダム（河道閉塞）のほか、がけ崩れ等が同時多発的に発生。地震発生から約2週間後に前線の活動が活発化したことによる豪雨が発生。



天然ダム イメージ図



訓練実施状況

## 講評

災害を経験した白馬村でも、訓練を続けないと、いざという時の防災対応は難しいと感じている。

災害はいつ発生してもおかしくない。災害に強い村づくりを進めていきたい。



白馬村 村長  
下川 正剛

## 【訓練スケジュール】

	実施事項	時間
	集合・受付・準備	12:30～13:00
1	開会	13:00
2	開会挨拶（松本砂防事務所長 五十嵐 祥二）	13:00～13:05
3	訓練の進め方等の確認（13:15 までに事前アンケート記入）	13:05～13:15
4	解説者付学習型訓練	
	① ステージ1【初動対応】	13:15～13:55
	② ステージ2【河道閉塞・地すべりの緊急調査対応】	13:55～14:45
	（休憩 15分）	14:45～15:00
	③ステージ3【河道閉塞・地すべりに対する監視・観測、応急対策】	15:00～15:20
	④ステージ4【降雨に対する警戒活動】	15:20～16:20
5	ふりかえり・意見交換	16:20～16:45
6	全体総括（解説者：土木研究所 上席研究員 石井 靖雄）	16:45～16:52
7	全体講評（大町市長 牛越 徹）	16:52～17:00
8	閉会	17:00

## 【訓練方法】

(1) 訓練ステージ（想定される状況に応じた段階毎に訓練を行う。）

ステージ1 初動対応ステージ

土砂災害（同時多発的な土砂災害、河道閉塞発生）の発生直後の初動対応

ステージ2 土砂災害防止法に基づく緊急調査等の対応ステージ

緊急調査や現地調査の実施や調査結果を受けての住民避難への対応

ステージ3 天然ダム（河道閉塞）に対する監視・観測、応急対策ステージ

河道閉塞に対する監視・観測、応急対策の対応

ステージ4 降雨に対する警戒活動ステージ

地震発生後の降雨状況に応じた土砂災害警戒情報発表や各種気象情報の収集の対応及び降雨に係る情報を受けての住民避難への対応

(2) 訓練の進め方

「司会進行者」と「訓練参加者」にわかれ、「司会進行者」は想定した災害シナリオに則して状況付与を行う。そして「司会進行者」から「訓練参加者」に、その災害事象への対応について様々な質問をし、「訓練参加者」は回答する形式で進行する。また、「解説者」は土砂災害の専門家という立場から、災害対応行動や制度等についての解説を実施し、必要に応じてステージの総括を行う。

このように、1つ1つの災害事象を取り上げて質問回答する形で行うので、時間軸にとらわれず場面を区切った訓練ができる。また、その都度補足や解説を行うことで訓練参加者や見学者の理解度を向上できる訓練方式である。

